



つくる人をつくる

～ 100年後の文化の源泉を育てる～

2024年10月17日

(一社) ジソウラボ

(株)島田木材

島田優平

自己紹介

47(南砺市井波地域出身)

<井波小、中>野球スポーツ少年団、野球部

<高校>:砺波高校理数科卒業 野球部主将(最後の富山県大会ベスト36)⇒50年ぶり富山県大会ベスト4

<大学>東京農業大学農学部林学科卒(現地球環境科学部森林総合科学科)⇒今はない(学科変更)

<社会人>日本でも有数の林業家の会社へ就職⇒県庁⇒30歳から家業へ

その他の職

●社会系

- ・井波地域づくり協議会地域づくり部会 副部会長
- ・井波日本遺産推進協議会ワーキンググループ 座長
- ・いなみ本町通り商店街振興会 理事
- ・南砺市商工会井波支部 理事
- ・南砺市観光協会井波支部 理事

●ビジネス系

- ・南砺森林資源利用協同組合 副理事長
- ・(一社)ジソウラボ 代表理事
- ・となみ衛星通信 社外取締役
- ・なんとエナジー 取締役副社長
- ・(株)知能システム 取締役社長



(株)島田木材の事業の内容



作業道開設



間伐作業



造材作業



木材運搬(ヒアブ1台)



森林組合等
請負事業
24%

不動産
20%



丸太販売
40%

製樽事業等
16%



丸太生産 (8,000m3)



植栽 (年間2.0ha)



商品 樽



見学



製材 (地元製材所へ外注)



建築用木材

富山県の森林状況（広葉樹の可能性）

・総土地森林面積	全国	32位
・私有林面積	//	38位
・私有林蓄積	//	37位
・人工林面積	//	42位
・人工林率	//	44位
・人工林蓄積	//	40位
・素材生産量	//	40位



搬出する材の40～50%はC, D材
現況は全国下位 (☹️)

全国的に上位な指標

・なめこの生産量	全国	13位
・外材依存率	//	7位
・民有林林道密度	//	2位
・保安林率	//	1位
・植生自然度	//	3位



- ◎自然度が高い
- ◎豊かな広葉樹資源がある。
- ◎自然が守られている。
- ◎出材できる環境がある。
- ◎低コストで森林の管理ができる。
- ◎水資源が豊かである。



70年生のスギ
(最終目標は?)

180年後の姿



樹齢250年生のスギ
(最終目標80本/ha(10,000m²)
1本当たり占有面積125m²(37坪専用)
⇒住宅の平均敷地面積に近い
木が成長に必要とする広さ=人の居住スペース

◎木(特に針葉樹)は150年以上たっても生き続ける生物であり、生活資材であり、エネルギーになりうる資源である。

⇒**これだけ持続可能なものは地球上にあるのか???**



砺波平野

富山湾



井波・庄川

庄川



注力事業 ウイスキー樽関連事業



富山県産のミズナラで、
ウイスキー樽をつくる。

日本で伐倒される木材のうち、広葉樹はわずか6%に過ぎません。一方で、烏田木材が所有する森林の約80%は広葉樹が占めています。広葉樹はキズがつきにくいことから、ヨーロッパでは家具やフローリング材として利用されてきました。そうした広葉樹の価値をさらに高めるために、私たちは日本固有種のミズナラを使ったウイスキー樽の製造を始めています。

ミズナラを活用した製樽事業



CLT構造建築



日本発のジャパニーズウイスキーボトラーズ事業



樽づくりのきっかけ

◆2004年～2013年 ナラ枯れ発生



◆2005年(平成17年～ 北陸コカ・コーラ うるおいの森づくり



●カシナガの影響をうけてナラ枯れしているのは、これからまさに利用価値の高いミズナラだ。

●ミズナラといえばウイスキー樽。 **ミズナラが枯れてしまう前に有効に活用することができないかな??**

●井波の木の技術も活かせるのではないかな?

●息子がウイスキー取り組んでいるので、話をしてみてもどうか?



●若鶴にもお抱え樽職人がいました。井波出身の方でした。

●地産地消で、地元の材料を使ったウイスキーづくりがしたい。(全国に10か所程度蒸留所あり)

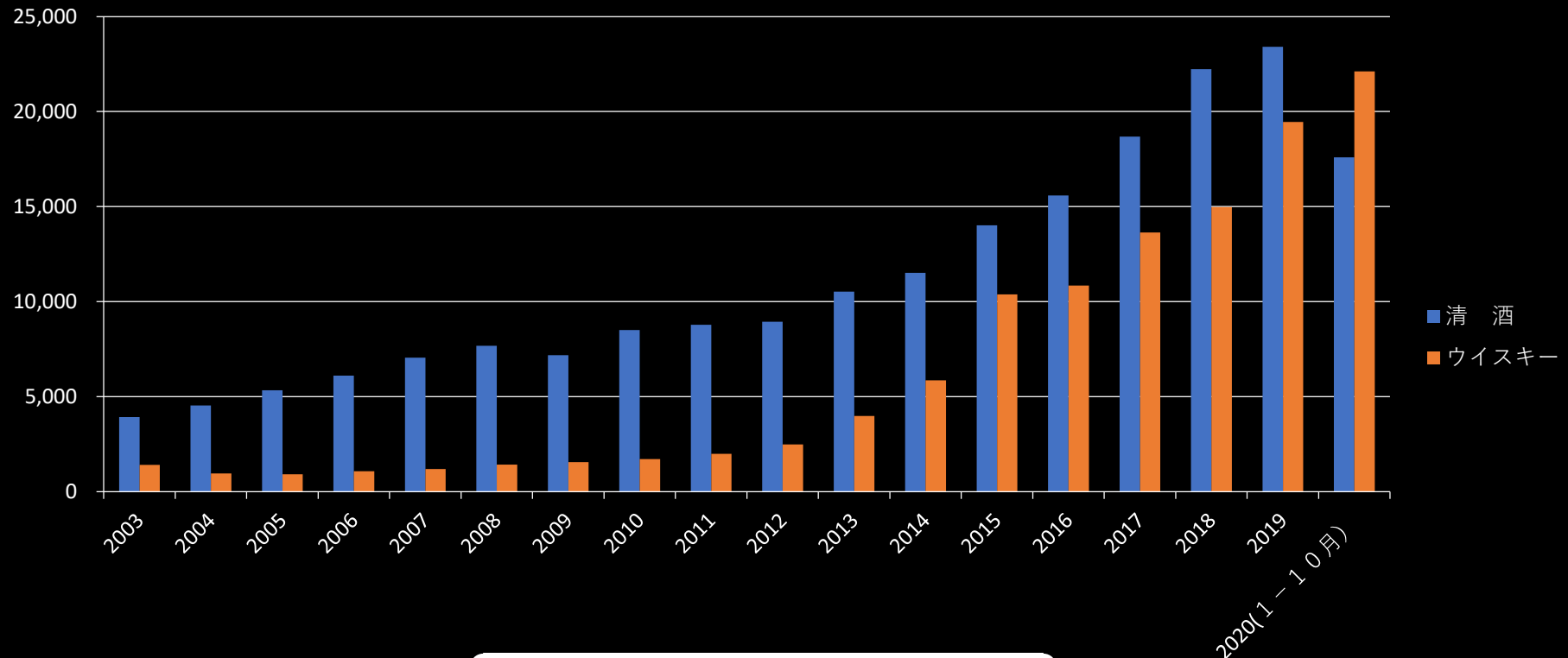
●その中でも樽はとても重要で大切な原材料。

●一緒に連携をして取り組みをすすめたい

●**既存商品の小樽はあるのですが、外国製(メキシコ)です。とてもよくできていますよ...**

日本のウイスキーの輸出金額

2020年には清酒を抜いて首位。
2010年比で約15倍の金額に



単位 金額 : 百万円
国税庁 酒類の輸出動向より作成

樽の製造の技術レベルの遷移 (上段年数、中断蒸留所数 下段 樽製造進捗)

R2年度
(2020)
約30箇所
30%

R4年度
(2022)
約60箇所
技術60%

R6年度
(2024)約
112箇所
100%

ミズナラヘッド

焙煎樽

漏れの修繕

BC加工
(樽を大きくする)

オールミズナラ
新樽製造

能登ヒバヘッド
地域PJ



ミズナラの確保と加工



樹齢100年のミズナラ(富山県地内)



大割の製材



桁取りの製材

丸太の木口の状態



赤太
(あかた)

■赤太
(あかた)

樽材として利用
できる部位

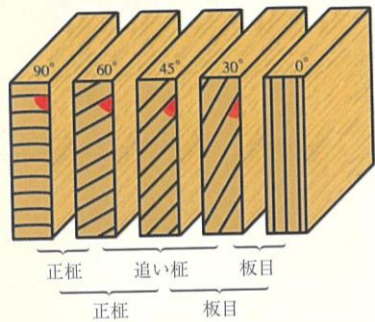
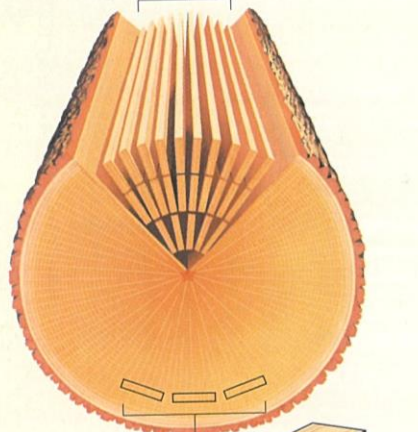
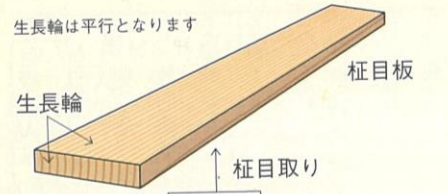
- ・大きい
- ・木目が細かい
- ・木目のうねりが少ない

特に利用しや
し赤太部分

白太
(しらた)

■白太
(しらた)
樽材には利用
できない部位

樽材の板にした状態の木口の状況



全国に2箇所しかない、独立系クーパレッジ(樽工場)

井波「三四郎樽工房」を日本一の樽産地にします！
(2025年)

南砺市井波というブランド

- 伝統工芸として木工技術が発達
- 樽製造や修理が可能
- 樽の問い合わせ（中国、メキシコ、フランス、インド、シンガポール、スイス）
- 湿潤で自然豊かな環境





JISO LABO

ジソウラボの名前の由来

ジソウ

「自」「創」

「時」 + 「想」

「地」「走」

兩砺の土地がもたらす豊かな自然と他者に対して安泰をもたらす思いやりの心、古くから育まれてきたこの土地独特の精神文化を、民藝運動の創始者である柳宗悦は土の徳と書いて「土徳(どとく)」と呼んだ。

ジソウラボは、そんな土地の文化を継承しながらも、現代の人口減に伴う様々な問題を積極的に解決する為、業種業態の垣根を超えて集まった新たな活動体である。

土「地」の力を継承し、「自」らの力で「創」造し、自立して「走」り出す。

まだ見ぬ100年後の井波文化を創り出す為に、短期的な成果を求めるのではなく、長期的な視点で持続可能な施策を行い、既存の豊かな文化に甘んじることなく、土徳文化に「自らを進化させていく力」を加えた、新たなまちづくりを行う。

01



一般社団法人イドウラボ

交通の課題をデータ活用により解決するラボです。井波の関係人口にとって便利な交通の実現を目指し、自治体と共に事業を推進しています。

地域内交通システムの確立

02



一般社団法人アキヤラボ

起業家の伴走には商いの場所・住む場所も必要では？との考えから店舗・住居に特化したラボです。同時に井波の空き家の課題解決に取り組んでいます。

空き家の利活用

03



任意団体ケイギョーラボ

井波地域では後継者不足が深刻化しており、必要とされるなりわいが廃業してしまう危機を迎えている。その解決方法の一つとして、家族以外へなりわいを承継する「継業」の仕組みを推進する。

生業の承継

現在立ち上げを検討しているラボ

モリラボ（仮称）：南砺の豊かな森林資源を有効活用し、新たな地産地消の仕組みを構築する。
ツクルラボ（仮称）：慢性的な職人不足が叫ばれている昨今、新たな作り手と繋がるプラットフォーム構築を目指す

Our Mission

つくる人をつくる

プレイヤーが集まる場、井波

「一緒に課題解決を」
次々に生まれ繋がる輪

県外建設会社

パン職人

コーヒーロースター

井波を面白いまち
として起業する人たち

林業家

WEBデザイナー

彫刻師

写真家

石屋

井波 INAMI

糸鋸師

主体的に活動するまち
づくりプレイヤー

建築家

IT起業家

醸造家

パティシエ

建設エンジニア

ツアーコンダクター

不動産屋

鋳物会社

県外旅行会社

オンデマンド交通

音響エンジニア

県外まちづくり会社

參考資料

富山県井波を愛する、異業種の若手経営者チーム



“任期のない”まちづくりを目指し2020年に一般社団法人化

ORIGIN

井波の由来は「水(源泉)」 源泉第1号 綽如上人

約630年前に本願寺5代目綽如上人が旅の途中で、井戸(泉)を掘り当てたことから、この場所に瑞泉寺を建立し、まちが生まれた。



WHO STARTED?

外からの若者が、自身の技術を町民に知らしめる

江戸時代後期、瑞泉寺の再建のために京都から呼び寄せられた青年、前川三四郎は、地域の人々に彫刻の技術を知らしめる。これにより200名余りが従事する日本一の木彫産地が誕生。しかし本人は、消息不明



Type text

募集から2週間で申し込み。東京の中目黒からご夫婦で移住し起業。」



井波と歴史上の関りが深い、五箇山で過ごす学生時代に、暮らす人の選択肢の鍵となる“交通”の重要性を実感し代表就任。





【第3期新卒者紹介】

井波彫刻の糸鋸師一員を志し、南砺市井波地域へ移住した柴田千珠さん(23)＝東京都出身＝が、同地域中心部の八日町通りに工房を構えた。井波の木彫を担う職人の数は減っており、中でも糸鋸師は全員が引退してしまった。柴田さんは「早く糸鋸の技術を習得し、井波彫刻を支えられるようになりたい」と意気込んでいる。(堀佑太)

糸鋸師志し工房設立

南砺移住の柴田さん(東京)「井波彫刻支えたい」

柴田さんは子どもの頃から木工細工が好きで、高校卒業後は京都美術工芸大に進学。換物などの木工や彫刻を学んだ。

糸鋸師に関心を持ったのは、大学4年の春に井波地域の一般社団法人「シワラボ」が糸鋸の職人を募集していることをネットで見つけたのがきっかけだった。シワラボは、2019年から地域の伝統工芸の人材育成事業に取り組み、糸鋸師のなり手がいないことに危機感を持ち、興味のある人を探していた。木彫関係の仕事に就こうと考えていた柴田さんは同法人に連絡を取り、20年夏に井波を初めて訪れた。

井波彫刻総合会館や製材所のみを扱う道産を見学して戻った。一町を歩いてみると、木彫りがこんなに根付く地域はないと移住を決意。昨年4月に移住した。

井波では、彫刻師が糸鋸師の工程を担ったり外注したりしているが、「専門の職人がいなければ、品質の低下につながるかねない」という声も上がっていた。柴田さんは「井波彫刻の歴史を知ると、糸鋸は井波に残していかなければいけない技術だと感じた」。工房は昨年12月21日に完成した。県の補助金を活用し、3年前まで土産物産だった瑞泉寺前にある木造2階建て空き家の1階部分を約30平方メートルを改修した。糸鋸機は砺波市庄川地域の作業所から譲り受けた。

柴田さんは現在、シワラボのメンバーで井波彫刻師の前川大地さん(44)が代表を務める工房「井波木彫工芸館」に所属し、糸鋸の腕を磨いている。今後は自らの工房で、前川さんをはじめ井波の彫刻師から糸鋸の仕事を受け負うことを目指す。

前川さんは「若い人が井波を選んで来てくれるのはうれしい。一日も早く一人前の職人になってほしい」と期待。柴田さんは「井波で受け継がれてきた糸鋸の技術が途絶えないよう頑張りたい」と話している。

ズーム

糸鋸師 井波彫刻の主力製品である「欄干」の制作を支える職人。彫刻師が木材を彫り始める前に、作品に必要な部分を糸鋸機で呼ばれる専用のミンで取り除く。1990年代までは南砺市井波、砺波市庄川の両地域で5人ほどの職人がいたが、2010年代半ばまでに全員が引退した。現在は社会福祉法人マイン(南砺市名・井波)の利用者が職業訓練の一環として糸鋸の仕事を受け負っている。

八日町通りに構えた工房で糸鋸機を触る柴田さん。奥は前川さん(南砺市井波)

14日午後0時までの期間、展示量は多いところで、予約や、治療法の開発

箱に入れただけですぐ状態にした。マウスの脇の歯

2022年

内面

ジソウラボメンバーとの運命的な出会いを経て、富山にUターンし開業。



『自分のお酒で周りを幸せにするのが夢』という若者から手が上がり、2ヶ月で募集締め切り。



家業でもある井波彫刻を広めたいと応募。ジソウラボメンバーの支援を受けて

